

（BOX 1）米欧における経済活動の再開の世界経済・物価への影響

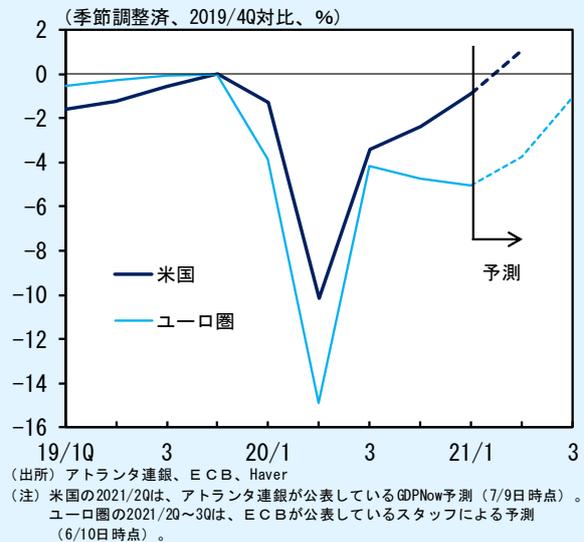
海外経済は、国・地域ごとにばらつきを伴いつつ、総じてみれば回復している。中でも、米欧では、ワクチン接種が進むもとの、経済活動の再開が進展しており、成長率を高めてきている。本BOXでは、こうした米欧における経済活動再開の動きとその世界経済・物価に及ぼす影響を整理する。

まず、実質 GDP の動きをみると、米国では1～3月に続き、4～6月も高めの成長を実現し、新型コロナウイルス感染症拡大前の水準を上回るとみられている。欧州でも、米国にやや遅れる形で、夏場にかけて成長率を高めていくとの見方が多い（図表 B1-1）。この背景には、ワクチン接種が進むもとの、公衆衛生上の措置が段階的に解除されていることがある。こうしたもとの、経済活動の再開が進展しており、これまで抑制されてきた対面型サービス業でも持ち直しの動きが明確化している（図表 B1-2）。また、米国では、既往の大規模な経済対策も、個人消費の増加などを後押ししていると思われる。

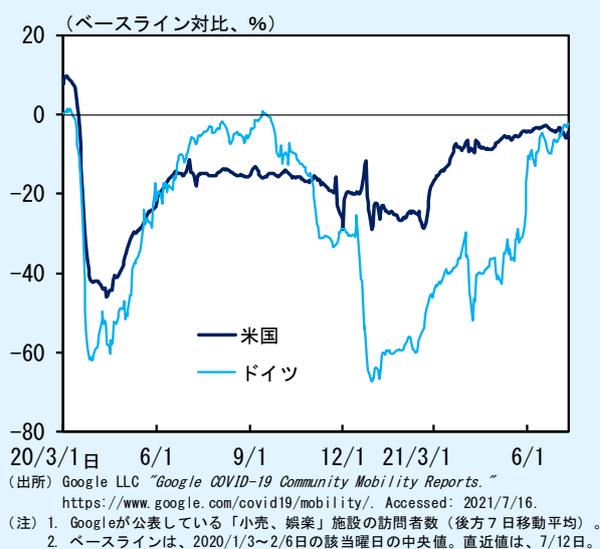
こうした米欧経済の改善は、貿易チャンネルを介して、世界経済を押し上げる方向に作用している。地域別にみると、中国では、輸出・生産が堅調な増加を続けているほか、中国以外の新興国をみても、多くの国・地域で、輸出は感染症拡大前の水準を明確に上回っている（図表 B1-3）。NIEs・ASEAN ではIT 関連財の輸出増加が続いているほか、ラ米等では、鉱物や食料品が輸出を牽引している。

先行きについてみると、当面、米国や欧州経済は、経済活動の再開が更に進むもとの、高めの成長を続けると見込まれる。中国経済も民間部門が

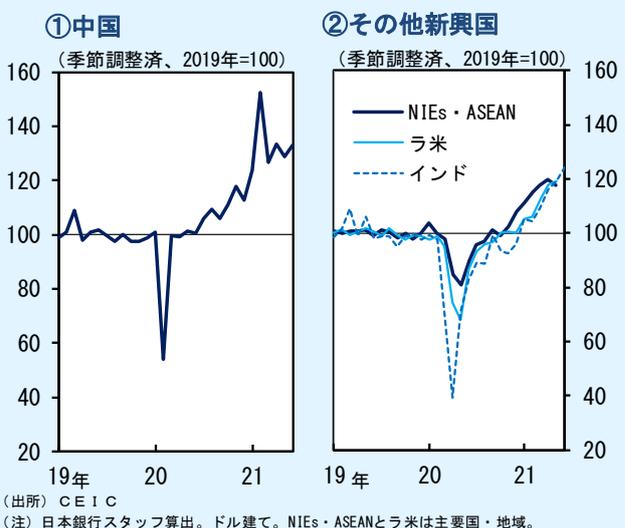
図表B1-1：米国とユーロ圏の実質GDP



図表B1-2：米国と欧州の移動状況



図表B1-3：主要新興国・地域の名目輸出



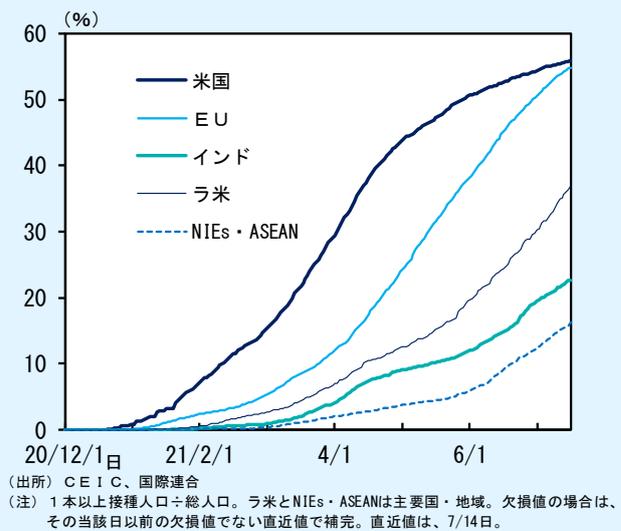
主導する安定した成長経路に復していくとみられ、世界経済は、先進国や中国が牽引する形で、回復を続けていくと考えられる。

もっとも、こうした世界経済の中心적인見通しは、引き続き、不確実性を伴うと考えられる。

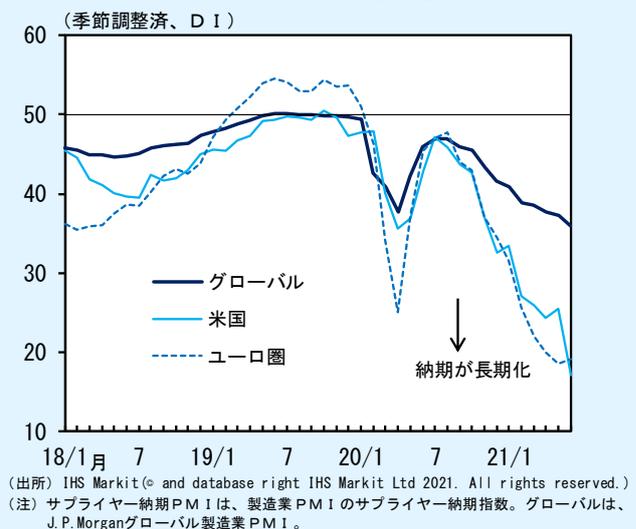
第1に、グローバルにみたワクチンの接種ペースや感染症の帰趨を巡っては、不透明感が拭えない。新興国の中には接種が遅れている先もみられ、そうした先を中心に、感染が再拡大するリスクがある（図表 B1-4）。また、ワクチン接種が進んでいる先進国でも、変異株の感染拡大などにより経済活動の再開が遅れる可能性もある。

第2に、米欧で急速に経済活動の再開が進むもとで、財・労働市場の一部で供給制約が生じており、その解消が遅れば、世界経済の成長を抑制したり、物価の上押し圧力となる可能性もある。サーベイ調査によると、企業の入荷遅延を指摘する声は、原材料の生産不足や物流面の制約から、米欧を中心に大幅に増加している（図表 B1-5）。また、対面型サービス業の営業再開等に伴い急速に求人が増加している米国では、失業率がなお高水準にあるもとでも、人材確保が困難との指摘が増加している（図表 B1-6）。これらの制約は急速な経済活動の再開に伴う摩擦的な事象であるとみられ、生産体制等の再整備や、感染症への警戒感の薄まり等による労働者の市場復帰に伴い、次第に解消していく可能性が高い。もっとも、感染症からの経済活動の再開は、近年では例をみない事態であり、供給制約が長引いたり、その物価への影響が強まったりすることがないかは注視していく必要がある。また、こうした供給制約の先行きや、その経済・物価への影響についての見方の変化が、国際金融市場や国際商品市況に及ぼす影響についても注意が必要である。

図表B1-4：主要国・地域のワクチン接種率



図表B1-5：サプライヤー納期PMI



図表B1-6：米国の労働市場

